

地域課題の解決に向けた取組

適切な更新確保に向けた普及

上川中部森林管理署

はじめに

当署管内は、北海道のほぼ中央部、石狩川の上・中流部に位置する、1市6町の国有林を管轄しています。

管内には、山岳部を中心に国内でも有数の針葉樹と広葉樹が混ざった天然林地帯や十勝岳をはじめとする道内有数の火山地帯を有しており、その多くが大雪国立公園等の公園地域や森林生態系保護地域になっています。

また、昨年は、大雪山系の日本遺産認定や北海道遺産に「三浦綾子文学館とともに外国樹種見本林」が選定されるなど、多様な価値が付与される地域となっています。

適切な更新確保に向けた普及

一方、国有林の二割を占める人工林では、森林資源の積極的な循環利用が進み、伐採後の更新面積は益々増加することが想定される中、造林・保育コストの縮減に向けた

地域の森林・林業関係者の更なる意識醸成がより必要となっていることから、造林作業の省力化に鋭意取り組んでいます。

これまでの取組

① 伐採から地拵え・植付けまでの一貫作業システムを導入し、一貫作業・コンテナ苗の低密度植栽による保育コストの縮減に向け、具体的な手法の例示及びコンテナ苗の植栽体験を行っています。



コンテナ苗の植栽体験

② 下刈期間の見直しでは、コンテナ苗と下草の伸長比較などから年数や回数などの適切な見極め方の普及等に取り組んで

います。

保有機械等地域の実情に合った地拵えの提案

昨年度は、一貫作業において、多様な地拵え方法における作業工期等の比較を行いました。



下刈省略化が期待される全回転格子バケット

結果は、作業効率に着目すると一般的なバケット（バックホウ）が最も優れており、下刈り等今後の保育に影響するササ等の根系除去に着目すると全回転格子バケットが最も優れていました。

この結果を近隣市町村、森林組合等、指導林家、研究機関などを対象に行った検討会で報告すると

ともに、大型機械地拵の有効性、保有機械等地域の実情に合った地拵え方法の提案を行いました。

今後の取組

大型機械を活用した地拵の継続的な効果として、それぞれの使用機械毎の苗木の成長と下層植生の回復状況を中心にモニタリングし、下刈りの省略程度や天然更新の可能性など地域に提案・普及していくことを検討していきます。



100名以上の参加者が集まった現地検討会